

特集「21世紀のコンピュータセキュリティ技術」の 編集にあたって

佐々木 良一†

21世紀を迎え、セキュリティ技術に対する期待は、ますます大きくなってきている。それは(1)不正アクセスやコンピュータウイルスによるセキュリティ被害が増加し、対策技術が重要となるとともに(2)電子商取引や電子政府において公開鍵暗号をベースと電子署名技術が普及し、公開鍵暗号などのセキュリティ技術が新しい社会基盤となりつつあるからである。

1998年に設立されたコンピュータセキュリティ研究会(CSEC)は、このようにセキュリティ技術が重要性を増す中、研究会、シンポジウムなどの活動を積極的に行い、順調に会員数を増やしてきている。CSECが主催し2000年10月に実施したコンピュータセキュリティシンポジウム(CSS'2000)では、162名の参加があり、56件の発表があったが、これは前年より参加者が17名増え、発表件数が9件増加している。

本号はCSECが中心になり企画した特集号である。CSECでは、セキュリティに関し、要素技術だけではなくシステム技術も扱い、理論だけでなく応用も扱いたいと考え、活動してきた。今回の特集でも関連する広い分野の研究論文を掲載したいと考えた。

その結果は、30編の投稿があり、うち、18編を採録とした。そのうちわけは、セキュリティの歴史分析2編、暗号系3編、透かし2編、認証3編、ネットワークセキュリティ2編、セキュリティ技術の応用3編、アクセス制御3編と広い分野に及んでいる。数式のない論文もあるのが特徴である。

セキュリティは塀の高さと同じである。他の部分が5mあっても、一カ所10cmのところがあれば10cmの安全性しかない。したがって、いろいろな技術や対策を組み合わせ、弱い所を補完し高いセキュリティを確保する必要がある。セキュリティへの脅威が今後

ますます増大していく中、セキュリティ研究人口の大幅な増大を図るとともに、さらに多くの分野の研究が必要となっていると考えている。今後は、セキュリティの高いソフトウェアの開発技術、人間とセキュリティ対策の良い関係を築く技術、各種のセキュリティ教育などに関する論文も期待したい。

最後に、関係者の方々に感謝したい。限られた時間の中で、多様な論文の査読を行い、出版にまでこぎつけることができたのは、査読者や編集委員、学会の担当者などのおかげである。特に、村山優子編集委員、菊池浩明編集委員にはいろいろな作業を行っていただいた。記して深謝申しあげる。

「21世紀のコンピュータセキュリティ技術」特集 編集委員会

- 編集長
佐々木良一(東京電機大学)
- 編集委員(50音順)
岩村 恵市(キャノン)
岡本 栄司(東邦大学)
菊池 浩明(東海大学)
櫻井 幸一(九州大学)
新保 淳(東芝)
寺田 真敏(日立)
土居 範久(慶応義塾大学)
中野 秀男(大阪市立大学)
林 誠一郎(NTTデータ)
松本 勉(横浜国立大学)
宮地 充子(北陸先端大学)
村山 優子(岩手県立大学)

† 東京電機大学